第46回日本水環境学会年会優秀発表賞（クリタ賞）を受賞して

東北大学大学院工学研究科土木工学専攻　矢　島　悠　一

この度は日本水環境学会年会優秀発表賞（クリタ賞）を授与いただき，誠にありがとうございました。（公益財団）クリタ水・環境科学振興財団の皆様，学会関係者の皆様，そして審査に関わられた皆様に厚くお礼申しあげます。

昨年の東日本大震災では，東北大学の研究施設も大きな被害が生じました。私の研究サンプルも激しい揺れと長時間の停電により消失し，修士研究を継続することは非常に困難となりました。そこで滋賀県琵琶湖環境科学研究センターに１年間在籍させていただき，修士研究を遂行することができました。

私は，アオコ形成種となる藍藻類 *Anabaena* の休眠細胞の生理生態について研究をして参りました。具体的には純粋培養下で休眠細胞のみを大量回収する手法を開発し，その手法で得られた大量の休眠細胞を様々な条件で保存した後に，同一条件で発芽させることで，保存条件が休眠細胞の生残や発芽に及ぼす影響を評価しました。

その結果，休眠細胞のみを大量に回収することに成功し，高温－好気保存で休眠細胞の生残率が大幅に低下すること，低温保存により休眠細胞が高い発芽率を示すこと，６ヶ月程度の保存で，暗条件下でも浮上し，光照射直後に発芽可能な休眠細胞の存在が確認されるなど，今まで知られていなかった新たな知見を得ることができました。今後は，富栄養化が進んだ現場水域において本研究の知見が生かされることを願っています。

ポスター発表は私にとって本学会が初めてのことでした。休眠細胞の発芽の様子など，限られた紙面上で分かりやすく伝えることは難しいため，本学会のために休眠細胞の模型を自作し，極力分かりやすい発表となるように心掛けました。その結果，最高得点でクリタ賞を受賞し，授賞式において受賞者代表の挨拶をさせていただきました。修士研究の集大成となる本学会で，このような経験をさせていただきましたことを誠に光栄に思っています。研究室生活で得た経験を今後の自分の成長の糧とし，豊かで安心な生活のできる社会環境の創出を目指して，社会でその成果を発揮していきたいと思います。

最後に，終始暖かいご指導を賜り，震災後には私の願いを聞いて琵琶湖へ送り出していただいた東北大学大学院工学研究科の西村修先生，懇切丁寧なるご指導を賜りました東北大学大学院工学研究科の中野和典先生，野村宗弘先生を始めとする環境生態工学研究室の皆様，震災後の研究継続に多大なるご尽力を賜りました滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの一瀬諭先生を始めとする研究センターの皆様，そして信州の両親に心より感謝申しあげます。